

平成 30 年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」実施報告書（4）

第 4 回「里山のキノコ入門講座」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題 名	ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」 第 4 回「里山のキノコ入門講座」 実習：野外観察「里山の野生キノコ」 講義：「野生キノコとの付き合い方」 講義：「里山におけるキノコ栽培について」
日 時	平成 30 年 10 月 21 日（日） 10：00～16：00
会 場	千葉県昭和の森公園・千葉県緑公園緑地事務所会議室
出席者	受講生 19 名（10 市）・講師 3 名・スタッフ 1 名
内 容	<p>10：00～12：00 実習：野外観察「里山の野生キノコ」 講師：千葉県森林インストラクター 平尾 信三 会場：千葉県昭和の森公園</p> <p>13：00～14：10 講義：「野生キノコとの付き合い方」 講師：千葉県森林インストラクター 平尾 信三 会場：千葉県緑公園緑地事務所会議室</p> <p>14：20～15：30 講義：「里山におけるキノコ栽培について」 講師：千葉県森林インストラクター 鶴見 治 会場：千葉県緑公園緑地事務所会議室</p>
報 告	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和の森公園で野生キノコを観察・採集した。事前予想でキノコの発生が少なく見積もっていたが、受講生の目も加わり、容易くキノコを発見できた。同定したいところだが、キノコの同定は容易くない。観察の最中は「〇〇の仲間」とどめ同定は後にした。 ・キンランはベニタケ、ナラタケはオニノヤガラ菌の菌根菌からの栄養が欠かせないと、平尾講師がキノコの生態について伝えると受講生から驚きの声が上がリ、キノコへの関心が高いことが分かった。 ・午後の講義では、腐生性キノコ、菌根性キノコの分類から入り、キノコの全体像についての解説があった。中でもカレー粉の匂いに類似しているニオイワチタケに鼻を近づけた時の表情は驚きを隠せないようだった。 ・キノコの毒については、ウラベニホテイシメジ（食）→クサウラベニタケ（毒）、ムキタケ（食）→ツキヨタケ（毒）など間違えて有毒のキノコを採取することが原因と指摘した。 ・鶴見講師の講義は主にシイタケ栽培に絞った内容だった。里山活動でも多く見受けられるシイタケ栽培でのノウハウを解説した。 ・原木伐採、葉枯らしに始まるシイタケ原木の扱いを伝授。仮伏せ、本伏せ、菌紋の見方と奥義も含めた伝授。温度、湿度の管理などすぐにでも使える技術を示した。 ・受講生からの質問に関連して、マテバシイなどもほだ木になることや、ほだ木からは水分を徹底して抜くこと、天地ガエシの重要性などが付け加えられた。 ・補足としてマイタケの栽培方法にもふれ、

添付資料（写真）



平尾信三講師



伊藤副理事長



早速キノコを発見



何の仲間？



ホコリタケの仲間でしょうか



イボテングタケ？



平尾信三講師の講義



受講生の皆さん



キノコを同定中



全員集合して



鶴見治講師の講義



シイタケに続きマイタケの栽培について説明